

五島市図書館友の会だより

第 23 号(2022.7 月)



本との出会い

記憶にない絵本 私の幼年期は戦時中から敗戦直後に当たる。物資難だったから本の用紙がなく、カラー印刷も限られていたので、絵本の制作は少なかったに違いない。積み木で遊んだ覚えはあるものの、絵本が家に置いてあった記憶はない。

子ども向けの雑誌 昭和 22 (1947) 年に久賀島の村立田ノ浦小学校に入学、2 学年が同じ教室で教えてもらう複式学級だった。アメリカ進駐軍 (の係官) が視察に来るといふ報せが入ると、男女 2 人 1 組が同じ机に並ぶ席替えをさせられた。男女共学、男女同権を実行している実例のつもりだろう。ところが、「来ない」と分かると、元通り男女が別々に座らされた。

1 年の時から、東京にいた父 (同盟通信社の元記者) の旧部下から小学館発行の「小学 1 年生」と題した月刊誌が送られて来た。厚紙を組み立てる付録が楽しみだった。

「少年クラブ」を手にする 3 年か 4 年の正月、プレゼント誌は講談社の「少年クラブ」に変わる。付録の日本地図が珍しかった。初めて見る地図上に各府県の特産物が記号や絵入りで示されていた。当時は石炭の増産が最優先されていたからであろうが、長崎、福岡、山口、茨木県の地図上に「炭田」を示す記号が描かれていた。この出会いがきっかけで中学、高校で科目の「地理」が好きになった。

少ない本の記憶 雑誌に比べると、本の記憶は多くない。小学校には図書室がなかった。学校に届いた本をクジ引きで当たったが、内容は思い出せない。5 年生の頃、かかりつけ医の奥浦慈恵院の女医さんから、長崎の被爆者・永井隆博士の著書「この子残して」などを母に貸してくれ、読んだ。「誠君」「カヤノさん」という兄弟の名前を憶えている。

亡父の蔵書に触れる 座敷の書庫から手に取って読んでみたものの、難しかった。俳句集の中の分厚い本に「五島 きゆう」と記した人の句が目についた。「この人は？」と母に尋ねると「お父さんの俳句の先生で、福江町にいた大野さんという方よ。『きゆう』は俳号です」と教えてくれた。何十年か後、五島文化協会の「浜木綿」誌に、きゆうのホトトギス入選句と生涯を紹介した寄稿につながる。

小学校所蔵の「五島民俗誌」 6 年の頃、久保清著「五島民俗誌」を借りて読んだ。これは後に五島や久賀島の郷土史に関心を持つきっかけとなった。

愛読した「少年クラブ」と、友達が買っていた「少年画報」と交換して読みふけた。

文庫本との出会い 久賀中学に入学すると読書環境が一変した。1 年に入学して父の蔵書にあった武者小路実篤の「人生論」を読んだ。抽象的な文章の読解に初めて取り組み、参加

していたクラブ・新聞部の顧問の女教師に読後感を話した。翌日、先生は「これを読みなさい」と武者小路作「友情」「その妹」を貸してくれた。文庫本との最初の出会いである。

アルバイト料で本を購入 田ノ浦地区では中学生になると、キビナゴ地引網の作業で1人前の働き手として認められ、日当をもらえた。秋から3月頃までの漁期、未明に浜辺で網を引く作業に従事。日当100円とキビナゴの現物(1斗マス一杯)を支給された。さらにイリコ(煮干し)製造作業にも雇われ、数百円の日当を貰った。現物支給のキビナゴもイリコにして出荷。半年の漁期中に計7,800円を稼いだ。

愛読した「次郎物語」 思わぬ収入を得て福江の菊屋書店で下村湖人作「次郎物語」(角川文庫、全5巻)を購入した。佐賀県の農村で育った少年・次郎の成長物語である。旧制中学に入ると、「朝倉先生」に私淑して社会的にも目覚めていく。自分の分身のように思えて、愛読。1時間かかった通学路で歩きながら読んだ記憶がある。

これをきっかけに伊藤左千夫作「野菊の墓」、漱石の「坊っちゃん」「吾輩は猫である」、子規や虚子の句集などの文庫本を買い始めた。

単行本を初めて買う やはり1年のとき。出版社は忘れたが、偉人伝全集を買い入れた。吉田松陰、伊藤博文、豊臣秀吉らの巻をおぼえている。

2年生に進むと、歴史の授業が始まり、偉人伝の影響もあって日本史に興味を覚えた。たまたま菊屋で中学・高校生向けに書かれた日本史の単行本(服部之総著)を見つけて購入。明治維新の原動力となった長州の奇兵隊をはじめ、幕末の民衆の活動を高く評価した内容に感動した。島崎藤村の「夜明け前」も買った。国語の時間に先生から「最近読んだ本の感想を発表しろ」と指名されたので、読後感を話した。

当時は岩波や角川の新書が発行されていたが中学時代には買っていない。昭和32(1957)年、五島高校に入学。初めて図書室に入り新たな読書世界が広がっていった。

リレーエッセイ 22

元朝日新聞記者／図書館友の会会員 内海 紀雄

アートの広場 展示紹介

写真は図書館ホームページより

令和4年3/16~5月

「あ~おばちゃんの暇つぶし」



令和4年6月~7月

「ソルダリング絵画展」

松井庸吉



蘭子さんのおすすめ絵本

その7

絵本は一生の友達です

『ちいさなこえが未来をかえる』

アンドレア・ペイティー, デイヴィッド・ロバーツ他

今の時期、どこの本屋さんでも高くつまれている絵本や児童書、夏休みの読書感想文の課題図書です。五島市では、コロナ禍で2年続けて中止（読書感想文発表大会）となりましたが、この夏休み、お子さんと一緒に読んでみませんか？

大好きなおじいちゃんがけがをしたゴミの山を公園にしたいと思ったソフィア。ご近所さんに相談して完璧な公園の計画もできました。でもソフィアは真夜中にふと気づいてしまいます。ご近所さんたちはソフィアがその公園を作ってくれるのだと。たった1人で、しかも小学生のソフィアが？さて公園はどうなるのでしょうか。ご近所さん自身になってしまいそうな大人の私達。お子さんと一緒にこの本を楽しんでみましょう。

子供にとって読書感想文はちょっと憂鬱な夏休みの宿題でしょうが、この機会に、一冊の本との貴重な出会いが生まれることを願っています。

図書館友の会会員 武藤 蘭子



図書館資料のお宝発見

その2

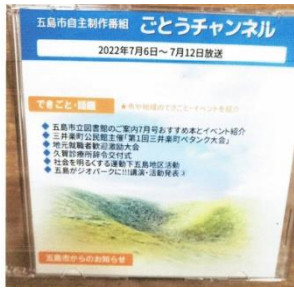
利用者目線の「これはお宝」を紹介します。

利用するときは図書館司書にお尋ねください。



「大活字本」コーナー

お年寄りや視力が弱い方用に文字を大きくした本の棚です。小説等が主で現在、図書館に約1,000冊あります、



DVD「ごとうチャンネル」

五島チャンネルで放送された過去のものをDVDにしたものです。

懐かしいあの時、この時、家族で、1人で楽しめます。

報告 第10回友の会総会開催

7月10日、「第10回友の会総会」が開催されました。コロナ禍のなか2年ぶりの開催で参加者は14名。前年度活動総括と令和4年度活動予定について承認されました。

残る時間で「自己紹介と1分間スピーチ」がおこなわれました。主な意見として

- ・新図書館には専任の図書館長がいてほしい。
- ・例会参加はいろいろな人との出会いがあり、面白い。
- ・子どもたちがオープンを楽しみにしている
- ・会員を増やす手立てを考えたら？
- ・会員拡大の際には「会の趣旨」をキチンと説明してほしい。
- ・内海紀雄さんの記念講演を開催しては？（「内海紀雄文庫リスト」作製・（予定）に伴い）
- ・大人の趣味（編み物等）を子供に教える場があっても良い。
- ・閉館中は本を借りるところがない。（→公民館や学校図書室を利用してほしい）

（総会資料が必要な方は役員まで連絡ください）

新役員紹介

古賀 義和・旭梶山 英臣・市川 和枝・宮脇 浩司・尾宮 スミ子 坂井 淳



新館準備のため、現図書館は9月30日で

閉館となります

定例会のご案内

新聞切り抜きの掲示や、図書整理など簡単な作業をします

7月31日（日）／8月31日（水）

午前10:00～図書館にて

編集後記

先日の読書会は「ヤマザキ マリ」著の本の感想会でした。その生き方に大いなる発憤を受け「もうちょい、がんばろうかな」と一同、じんわりと同調した次第です。

K/S